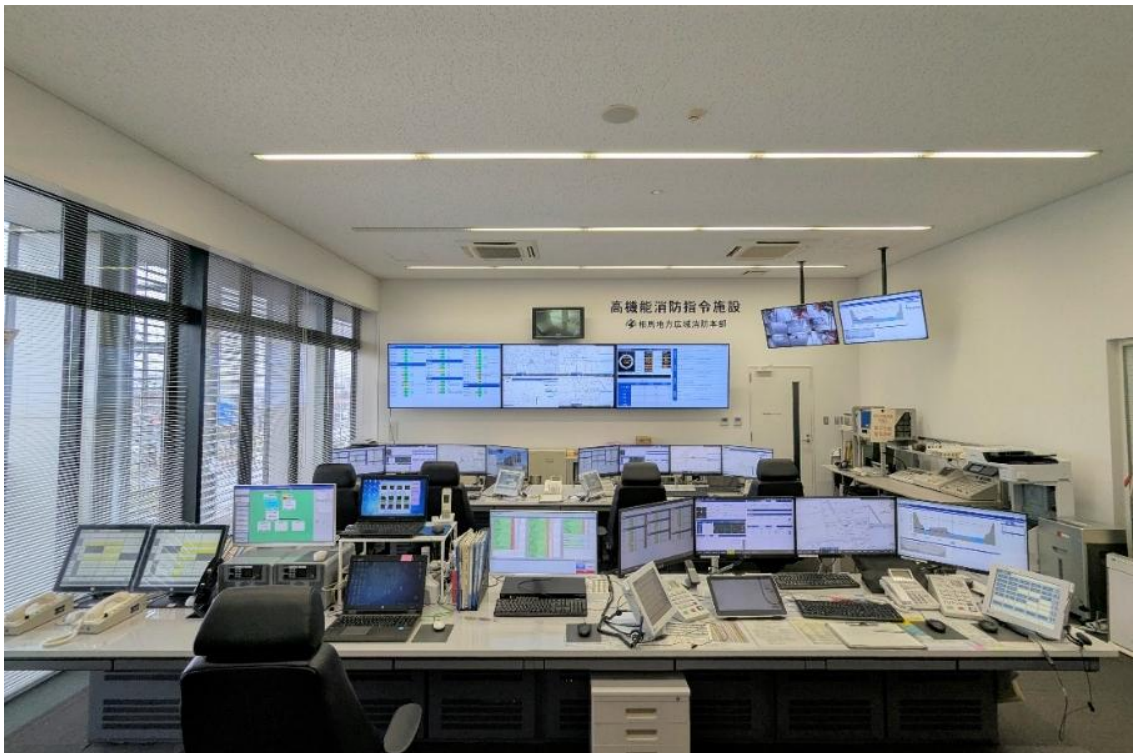


## 高機能消防指令施設の更新事業が完了しました。

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 事業名  | 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令施設システム整備業務 |
| 整備費用 | 9億1,850万円                     |
| 整備業者 | 国際電気・アクモス・フィールセーフ特定建設共同企業体    |
| 事業完了 | 令和8年3月31日                     |

相馬地方広域消防本部では、平成25年に消防救急デジタル無線システムを、平成27年には消防指令システムを整備しました。また、同年に両システムを集約した高機能消防指令施設を現在の庁舎に建設し運用してきましたが、老朽化に伴い更新時期を迎えたため、施設建設から10年が経過した令和5年度にシステム設計を開始し、令和6年度及び令和7年度の2カ年において更新を行い、最新技術を備えた新高機能消防指令施設を令和8年4月1日より運用開始しました。

### 【高機能消防指令施設全景】

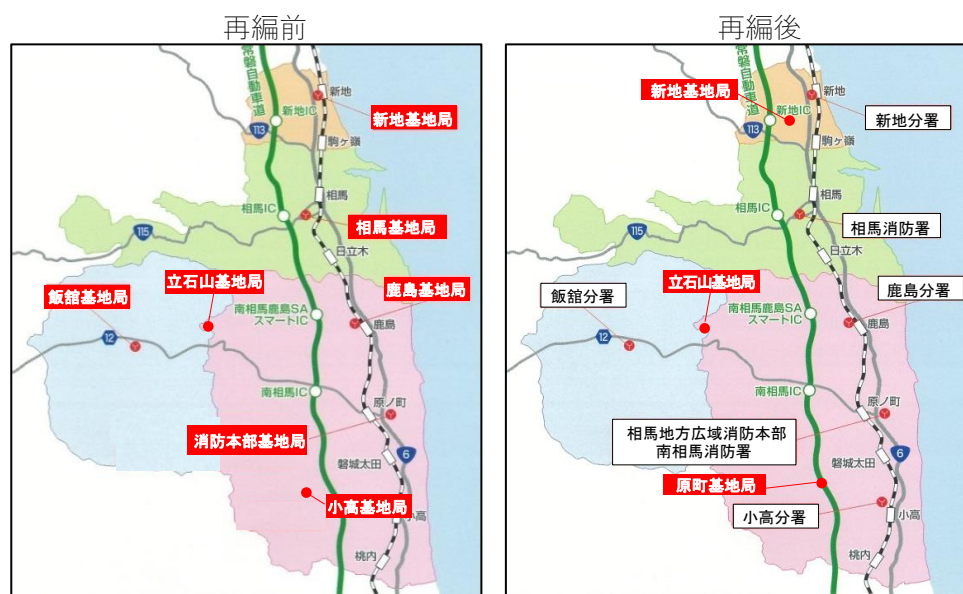


高機能消防指令施設は、相馬市、南相馬市、新地町、飯舘村からの119番通報を受信すると、発信者の場所を地図に表示し、災害地点の特定、災害内容に応じた出動車両の編成を行うとともに、安全・確実・迅速な出動指令を出すことが可能です。また、救急車や消防車内の車両端末装置には、出動指令と併せ、災害現場までの最短ルートが送信され、案内を行うことで、災害現場までの到着時間を短縮させ、被害の軽減や救急搬送された方の社会復帰率向上を図っています。

今後、ますます複雑かつ大規模化する消防需要に対応し、住民の安心・安全な生活を守るため様々なニーズに応じていきます。

## 【消防救急デジタル無線システム】

デジタル無線は通信の秘匿性が高く、患者や被害者の個人情報を守りながら情報の伝達ができるほか、音声と文字情報による活動支援により、災害発生時に迅速・的確な指示伝達を行うことができます。今回の更新では、最新技術による無線基地局の機能強化により無線通信エリアの干渉防止が図られるとともに、これまでの7基地局から3基地局に再編することで効率的な無線運用ができるようになりました。また、無線機の出力を増強させることで不感地帯の解消が図られ、より確実に明瞭な無線運用ができるようになりました。

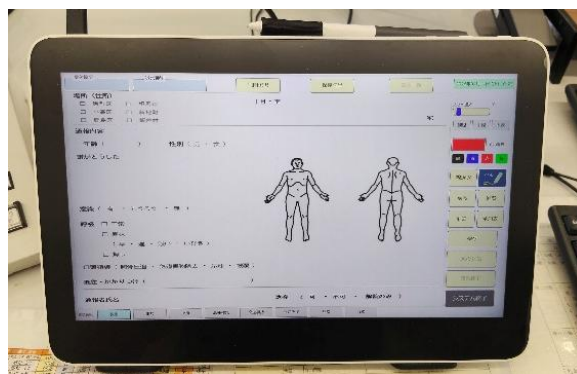


## 【消防指令システム】

今回の更新では、43インチ液晶モニターを天吊りにて2枚増設しました。また、75インチ大型モニター3枚のうち1枚は四分割表示が可能となったため、同時に最大8種類の情報を表示することができ、消防車両の現在位置や出動隊への支援情報など、多種多様な情報をリアルタイムに共有することができるようになりました。

指令台モニターは従来の2画面構成から4画面構成に機能強化することで、大規模災害時であっても迅速かつ効果的な部隊運用ができるようになりました。

また、新たに手書きパッドを導入しました。通信指令員が聴取した119番通報内容を手書きパッドに書き込み、その画面を画像として救急車や消防車に備え付けた専用端末に送信することができます。これにより、通信指令室と出動隊の間で、より正確で詳細な視覚的情報を共有できるようになりました。



本件に関するお問い合わせ先

相馬地方広域消防本部警防課（0244-22-4165）